

ばらんす

第36号

編集発行

大田原市総合政策部
政策推進課 市民協働係
〒324-8641

大田原市本町1-4-1

☎ 0287-23-8701

FAX 0287-23-8748

大田原市市制施行60周年記念事業

男女共同参画推進事業者表彰・市民の海外研修報告会・男女共同参画講演会

1月25日(土)午後、市総合文化会館にて市制施行60周年を記念し、男女共同参画推進事業者の表彰、市民の海外研修報告会並びに日本テレビ「行列のできる法律相談所」の菊地幸夫弁護士による男女共同参画講演会と三本立てのイベントが開催された。

男女共同参画は法律が施行され、その推進が叫ばれて久しい。しかし、その成果はまだまだの感がある。大田原市では先進的な取り組みをしている企業として、富士通モバイルフロンティアとアイ電子工業を表彰した(2、3面に掲載)。また、海外研修は、イギリス8日間の視察研修、市民交流体験が報告された。男女共同参画講演は、中折れ帽をかぶり登場した菊地弁護士が報告された。大学講師、家庭・地域活動などの紹介を通し、少子高齢化社会を迎える今、様々な示唆に富む貴重な体験・提言が語られた。庶民的で楽しい語り口の講演に、来場者から「面白かったねえ」との多くの声が聴かれた。

ワーク・ライフ・バランス——家事も仕事も一生懸命——菊地弁護士の講演テーマである。

菊地弁護士の平日は法律事務所のお仕事。今週も2年続いた二つの遺産分割裁判の決着が付き、ホッとこの会場に駆け付けたこと。



弁護士 菊地幸夫氏

普段は早朝の犬の散歩とランニング。土日は、午前が地域の少女バレーボールチームの監督として、練習試合の準備など。午後はママさんバレーボールチーム練習運営。それらの合間を縫って、テレビ番組収録、大学・司法修習所の授業、法律相談、委託講演などをこなす。

コミュニケーション能力が大切

近年、若い世代が自分の考えや気持ちをはっきりと語り、相手の言葉にきちんと耳を傾けるコミュニケーション能力が衰退し、企業・社会が期待する人材が少なくなったという。

少女バレーの監督として、子供たちとの交流を紹介しながら、子供たちの自由で素直な発信力、大切さを語られた。しかしながら、コミュニケーション能力が中学、高校と進み成果を追う画一的な指導とゲーム・携帯通信機器の過度の普

女性にもっと活躍の場を!

及からか、大学では学生たちの多くが「自ら考え発信する言葉」を失っている」と訴えられる。さらにコミュニケーション能力の欠如は、独居高齢者の悲惨な孤独死につながると実例をあげられた。

司法試験に受かった司法修習生の約4分の1が女性であるが、成績上位は女性が占めている。各大学の卒業総代の多くも女性である。また、大手企業の採用担当者の話では、成績採用すると採用枠が女性で占められるという。しかし、世界各国の男女格差に関する国際指標であるGGI(男女平等指数)では、日本は136か国中105位と極めて低い。優れた能力を秘め、経済的にも購買力が高い女性の大いなる活躍こそ、閉塞感を破り、我が国の明るい未来を拓くものではと期待が寄せられた。

海外研修派遣団

市民の海外研修派遣団の男女6名は、「輝きを求めて」をテーマに近代民主主義発祥のイギリスを訪問し、男女共同参画、教育、食文化を学んだ。また、一般市民の家庭でのホームステイを通して貴重な異文化交流を体験した。嬉々として報告をしたメンバーは、チーム名「CHELSEA」と同じお菓子のように輝いた。

バックingham宮殿にて



【平成25年度男女共同参画推進事業者表彰】

大田原市は、男女がその性別にかかわらず、個性と能力を発揮できる働きやすい職場づくりを積極的に取り組んでいる市内事業者を表彰する制度を創設しました。平成25年度の表彰では、富士通モバイルフォンプロダクツ株式会社と株式会社アイ電子工業が選ばれ、1月25日の男女共同参画講演会の式典の際、市長より賞状が授与されました。今回は、記念すべき第1回目の受賞となったそれぞれの事業者の先進的な取り組みを紹介します。

富士通モバイルフォン プロダクツ株式会社

人権尊重

富士通モバイルフォンプロダクツ株式会社は、富士通の携帯電話製造・修理部門を分社化し、製造修理に関するスピードアップを図るため2008年1月に設立された。

社会貢献を進めている地元会社を地域に知ってもらいたいと、男女共同参画推進事業者活動事例を紹介された。

男性社員245名、女性社員は110名と約3割を占める。40歳代の社員が多い中、毎年約10機種開発される新製品を、主として手作業で製造されている。

富士通グループの行動規範に「人権を尊重します」とかがけられている。

人格尊重を旨とし、社員を大切に働きやすい環境をということから人権関係に力を入れている。

*人権相談窓口の設置

相談対応は総務人事部門が当たり、男女1名ずつ担当者を配して相談しやすい体制が整備されている。

*人権研修の実施

12月の人権週間に合わせ、新入社員・中間層・幹部社員等、各階層単位に応じたテーマを設け毎年実施している。

*定期職場巡回面談の実施

全社員を対象に、人事勤労部門と年一回一人30分間の面談を実施、日頃の悩みからキャリア相談に至るまでヒヤリングする機会を設けて、社員一人ひとりが働きやすい職場作りにつなげている。2012年11月から取り組み、1サイクル目が終了した。現在2サイクル目に入っている。この取り組みは富士通グループの中で表彰を受

けた特徴ある活動である。

*禁煙・分煙に関する取り組み

工場内はすべて分煙化し、来客の協力を得て応接室まで禁煙となつている。産業医による禁煙セミナー等社員の健康保持に努めている。

性別に捉われない能力活用



計画的な女性の人材育成

*人材育成

富士通モバイルフォンプロダクツ全体の幹部社員は約40名である。モバイルフォン社では5年計画で女性幹部社員の育成に取り組んでいる。

*女性と職場

社員は地元の採用者が多く、キーマンになつていく女性社員や、キャリアを持つている女性社員

もいて、男女の差別はない。携帯電話の製造ライン・修理ラインは多種多様な機械化が難しく、細かい作業が多いため、女性も多く働いている。

取材後記

実際に産前産後の休暇を取り、育児休暇1年後に職場復帰、活躍されている女性も多いとうかがった。

働く女性は「出産・退職・再就職」が多くM字型の年齢構成の職場が見られる中、産後も働き続ける馬の鞍型と言われる年齢構成を地元会社の中に見て、心強く思った。



男女共同参画を目指して... 市内事業者が表彰されました!

ソリューション(課題解決システム)・ボックスと銘打ち、開発から量産までお手伝いしますとつたうーアンテナや各種通信機器、半導体検査機などの受託生産。オゾン水生成機、レーザー墨出し器、線香着火器など様々な自社開発製品の製造販売。ベトナム・ダナン市に海外進出企業を支援するリース工場の立ち上げなど、ユニークな経営を行う株式会社アイ電子工業の男女共同参画推進を紹介する。

アイ電子工業のホームページに「社長のひとりごと」と言うタイトルがある。そこにはトップの心情が語り掛けるように伝えられている。「顧客満足」のテーマで「当社の社は「顧客不満足度ゼロ」である。従業員には、お客様を満足させるなんておこがましい。不満を与えないようにせよ。約束を守る、希望に出来る限り応えること、そして感謝の気持ちを忘れないなど、当たり前の事を重んじてきた。しかし、その当たり前の事ですら、見落としてしまう事があり、日々反省の繰り返しである。——と語り、その後、あるレストランでのアルバイト従業員の心温まるエピソードを紹介し、その行動が上司からの指示でなく、自ら状況判断をし、そのサービスが提供されている

株式会社 アイ電子工業



たことを通して、従業員一人ひとりの仕事・会社への誇り、満足度のなかに、顧客満足の答えが見つかるのだから(要旨)——と記されている。同社は、子育てサポート企業の先進企業として、2010年県内大手企業を含めて6社に与えられた次世代認定マーク(愛称くるみん)を取得し、産前産後休暇、育児・介護休暇制度の充実と運用を図ってきた。

女性従業員への配慮

現在従業員は、契約社員を含め男性128名、女性108名の体制で、従業員の男女比はさほど変わらない。同社にとつて女性従業員の位置づけは大きく、出産育児等による退職は会社の大きな損失となる。

それだけに出産育児だけでなくセクシュアル・ハラスメント等も含めて女性社員への配慮がなされている。

例えば、出産育児休暇を取得する事前に、担当者で面談を行い、子育てしながら職場復帰できる環境づくり、保育園の入園準備、経済的な事も含めて、従業員の立場に立った相談が行われる。

また、育児休暇について男性従業員も気軽に相談できるよう社内教育がなされている。大手企業でもなかなか取得が進まない男性が、育児休暇を取得している。それだけ従業員が相談し易い環境が整っているといえる。

取得した男性は——生後3か月からしか保育園に入園できず、妻の産休明けから保育園入園まで

の間、自分が育児休暇をとれないかと夫婦で話し合い、会社の上司に相談をした。心よく了解を得られ育児休暇の取得ができました。ミルクの準備からおむつ交換など育児の貴重な体験ができ、会社や職場の同僚に感謝しています——と語っている。

同社では平成15年から25名の女性従業員が産後、24名(96パーセント)が育児休暇を取得し職場復帰している。そのほか取得している。



次世代認定マーク「くるみん」は次世代法に基づき一定の要件を満たした企業を、子育てサポート企業として労働局長が認定し付与するマークです。

「日本女性会議2013 あなん」

に参加して



徳島県阿南市

「日本女性会議」をご存知でしょうか？

日本女性会議とは、男女共同参画社会の実現に向けた課題の解決策を探るとともに参加者相互の交流の促進や情報のネットワーク化を図ることを目的とした全国規模の大会です。

30回目の大会となる今年は、2013年10月11日(金)～13日(日)に徳島県の阿南市で開催され、全国から2,100人が参加しました。日本女性会議は女性のためだけではなく、男女が一緒により良い社会について考えることが何より大切であるとのコンセプトで開催されました。男性の参加は2割を超え過去最高となりました。

初日は「ワーク・ライフ・バランス」「幸せを実感できる老後」「防災活動に女性の視点を」「子育ての今と未来」「DVのない地域づくり」など9つの分科会があり、パネルディスカッション、実践事例発表やワークショップを通して活発な意見が交わされました。2日目は開会式から始まり、基調報告では、内閣府男女共同参画局長より日本の男女共同参画政策の現状と今後の課題について話され、料理研究家の浜内千波さんの記念講演、阿波踊りのアトラクションの後、「日本女性会議30周年記念シンポジウム」が行われ閉会となりました。2日間を通して感じたこと

は、女性にとっても男性にとっても暮らしやすい社会の実現に向けて、それぞれが生き活きと輝いて生きるための様々な取り組みや事例発表があったと思います。またDV問題もワーク・ライフ・バランスも相手を思いやることが大切、子育ては「人に頼る」というコンセプトが印象的でした。

閉会式での大会メッセージは「男(ひと)と女(ひと)思いやりと感謝の気持ちで共に汗を流す」でした。次回第31回は「未来の景色は私たちが変える」をテーマに10月17日(金)から19日(日)札幌で開催されます。



日本女性会議って

“なに”

1975年、国際連合が「国際婦人年」の宣言を行い、メキシコで第1回の「世界女性会議」が開かれました。それに続く10年を「国連婦人の10年」と定めたことが、「日本女性会議」開催の契機となり、1984年に名古屋で第1回大会が開催されました。以後、毎年開催地が変わり、全国から団体・個人を問わず様々な参加者が集まっております。また、年々男性の参加者も増えており、男女共同参画をともに進めていこうという機運が高まっています。男女がお互いを理解し合い、誰もが人として豊かに生きやすい社会となることを目指しています。今回は、男女共同参画社会の実現をめざした「日本女性会議」について紹介しました。みなさんも、ぜひ一度ご参加ください。

編集委員募集!!

一緒に「ばらんす」をつくりませんか？

「ばらんす」(11月、3月発行)の編集ボランティアを募集しています。年齢・性別は問いません。

【お問合せ】
大田原市総合政策部政策推進課
市民協働係
TEL. 0287-23-8701

取り上げてほしい情報がありましたらお寄せください。

編集後記

世界経済フォーラムは、2013年10月25日、日本のジェンダーギャップ指数(男女の格差を測る指数)は136か国中105位と発表しました。会長のラウスシュワブ氏は「固定観念と習慣を変えていくことは将来の目標などではなく、現在の責務」であると述べています。

男女がともに生きやすい、豊かな社会を目指すためにいつやるのか、まさに「今」こそ勝負の時ではないでしょうか。(藤沼)

編集委員

(50音順)

- ◆岩元 利孝 ◆栗原 敏子 ◆谷辺 範夫 ◆藤沼 久子

